

「進行肺癌における免疫チェックポイント阻害薬治療後の再発形式と局所再発に対する局所治療についての検討」に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2023年10月30日～2025年12月31日

〔研究課題〕

進行期非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害薬単剤治療後の再発形式と局所再発部位に対する局所治療についての検討

〔研究目的〕

進行期非小細胞肺癌症例で免疫チェックポイント阻害薬単剤治療で奏効した例では、肺の原発およびリンパ節などの局所再発が多いとされ、局所再発に対して放射線治療などの局所治療を行うことで予後を伸ばすことが出来るとされており、ただし、肺癌患者における免疫チェックポイント阻害薬の再発形式と局所治療についてまとめた報告は少ないです。我々は免疫チェックポイント阻害薬による再発部位と局所治療の有益性について明らかにします。

〔研究意義〕

再発様式を明らかにし、局所の再発の場合、局所治療を行うことで予後が改善するかを明らかにし、今後の肺癌治療の一助とします。

〔対象・研究方法〕

2016年1月から2023年7月にかけて、当院で免疫チェックポイント阻害薬単剤治療を行った進行期非小細胞肺癌患者様を対象とします。調査項目は、非小細胞肺癌患者の年齢、性別、喫煙歴、治療開始時 Performance Status (PS)、癌遺伝子 (EGFR, ALK) の有無、生存期間、治療成功期間、最良効果判定、組織型、進行期 (Stage)、治療内容、治療開始時の採血データです。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院 内科学講座 腫瘍内科

〔個人情報の取り扱い〕

本研究に携わる関係者は、個人情報保護法に基づき、研究対象者の個人情報を厳格に保護いたします。患者 ID に番号を割り付けし、研究対象番号と個人情報との照合に用いる対照表を作成し、講座内の施錠できるキャビネット内に保管いたします。個々の抽出したデータは統合・解析し、最終的には対象者全体のデータとして扱い、発表したデータからは個人が特定同定できないようにいたします。死者の情報についても同様に取り扱い対象者が特定同定できないよう十分に配慮します。記録の保管については、研究実施中は、講座内の施錠できるキャビネット内に保管とし、「臨床研究における記録保管に関する標準業務手順書」に従い行います。研究終了後、情報については帝京大学臨床研究センターにて10年間保管後、廃棄致します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名 関 順彦 職名 教授
研究分担者:氏名 落合 亮介 職名 助手
所属:帝京大学医学部附属病院 内科学講座
住所:東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) [内線 7784]